

吸血鬼ドラキュラ・魔女そして中世キリスト教文化

専修大学文学部英語英米文学科 教授 並木 信明

お断り 講義の題目として最初は「吸血鬼ドラキュラ・魔女そして中世ゴシック文化」としておりましたが、都合により「ゴシック文化」を「キリスト教文化」に変更させていただきました。「ゴシック」(Gothic)は中世においては、ゴシック大聖堂に関連することとして、同じ文化環境と考えられます。最初は「ゴシック」の由来と、近代のゴシック小説という変化を論じる予定でしたが、時間の都合上割愛させていただきました。御了解いただければ幸いです。

資料1 宗教改革

1517年ドイツのマルティン・ルターが、カトリック教会が金を払った信者にのみ罪の赦しを行うなどの、金権的システムを批判して、95ヶ条の論題を公開したことに端を発して、ヨーロッパ各地でカトリックと反カトリックの勢力が争い、反カトリック勢力からルター派などの「プロテスタント」と呼ばれるキリスト教の一派が台頭して、新しいキリスト教の潮流となった。

イギリスでは、国王ヘンリー8世の離婚問題からカトリック教会を離脱して、国教会が生まれた。

またアメリカ合衆国は、イギリスの「組合派」、「長老派」などピューリタンと呼ばれるプロテスタントが基礎を築いた国。

資料2 魔女裁判

キリスト教会は、12、13世紀のフランスやイタリアでのカタリ派という反カトリック勢力に対して過酷な弾圧をしたように、異端者には厳しく処罰する歴史を持っていたが、15、16世紀には、地域共同体から外れた人や反社会的な人たちを魔女として処罰することが、カトリック地域、プロテスタント地域を問わずに広く行われた。この時の魔女の規定がその後の悪い魔女のイメージ作りの基礎となった。

資料3 グリム童話

19世紀初頭、フランス・ナポレオンに占領されたドイツでナショナリズムが高揚し、ドイツの民衆文化が注目され、民謡やメルヒェン(民話・童話)の発掘作業が進み、グリム兄弟もメルヒェンを収集して1812年に第1巻、1815年に第2巻を刊行した。グリム童話には「白雪姫」の継母のように、悪い魔女がいくども登場している。

資料4 ドラキュラ(Dracula)

《ドラキュラ》は、アイルランドの作家ブラム・ストーカー(Bram Stoker, 1847-1912)の小説『ドラキュラ』(Dracula, 1897)に登場するドラキュラ伯爵(Count Dracula)という吸血鬼。

ブラム・ストーカーは、現在のルーマニアの南部ワラキアのヴラド4世(431-1476)という、オスマン帝国の侵略に勇猛果敢に戦った国民的英雄で、数千人を串刺しの刑に処して喜んだ、血に飢えた暴君(という噂のある人物)から着想を得て、吸血鬼ドラキュラ伯爵を創造した。

資料5 吸血鬼(vampire)

(1)古代神話と伝説

世界各地の古代の神話や伝説には、人の血を吸う神・悪霊・人・怪物が登場する。たとえば、ギリシア・ローマ神話では、エンペーサ、ラミア、ストリガといった女の姿をした血を好む神が数多く登場する。

(2)旧約聖書

旧約聖書では、イザヤ書にバビロニアの女の妖怪リリトがリリス(Lilith)となって現れ(イザヤ書34:14)、またユダヤ教の聖典タルムード(口伝律法)によれば、リリスはアダムの最初の妻だが、彼と別れ、悪魔や悪霊の女王になり、乳飲み子の血を吸い、睡眠中の青年の活力と精力を奪ったとされる。

資料 6 主な吸血鬼・ドラキュラ映画

1. 1922年『吸血鬼ノスフェラト』(独) 監督 F.W. ムルナウ
最初の吸血鬼映画。ストーリーは小説『ドラキュラ』に基づくが、著作権が取れず別の題となる。
2. 1931年『魔人ドラキュラ』(米) 監督ドット・ブラウニング、出演ベラ・ルゴシ
3. 1935年『古城の妖鬼』(米) 監督ドット・ブラウニング、出演ベラ・ルゴシ
4. 1958年『吸血鬼ドラキュラ』(英) 監督テレンス・フィッシャー、出演クリストファー・リー
5. 1992年『ドラキュラ』(米) 監督フランシス・コッポラ、出演ゲイリー・オールドマン、ウィノラ・ライダー。濃厚な吸血鬼ロマンス映画として人気を博す

資料 7 生ける死者 (living dead)

死体が全く腐らずに蘇って墓から出る⇒大昔からのギリシアの迷信。

15, 6世紀以降自殺者、破門者などキリスト教会の墓地に埋葬されない死者が増えた。

吸血鬼伝説と結びつき、夜墓場を出て生き血を吸うとされた⇒近代の吸血鬼伝説の始まり

資料 8 最後の晩餐 (十字架にかけられる直前のイエス・キリストと弟子との夕食会)

(1)イエス・キリストは、ユダヤ教の大司祭たちに憎まれて有罪判決を受け、エルサレムで十字架にかけられて死ぬがその直前に 12 使徒と呼ばれる弟子たちと一緒に夕食をとり、最後の言葉を伝えるが、その夕食会を最後の晩餐という。

(2)パンはイエスの肉体を、ブドウ酒は血を示すという言葉⇒キリスト教の聖餐式の由来

「十字架の受難の前の最後の晩餐の時、パンを弟子たちに与えて、これは自分の体であるといい、ぶどう酒の杯を回し、これは人々の罪をあがなうために流す血、契約の血だといった」(「マタイによる福音書」26:26-28)

資料 9 魔女と吸血鬼とキリスト教

●中世ヨーロッパ

魔女—悪い魔法を使い教会を脅かすと弾圧。

●魔女と吸血鬼の結びつき

悪魔法使いは、死後吸血鬼となって墓から蘇るとされた⇒神に背いた罰

資料 10 人間と獣

●人間=キリスト教徒は魂を持つが獣は持たない

狼男は人間の外観を持つ獣で、魂を持たないので天国に行けず、死後人間の生き血を吸う「生ける死者」(living dead)=吸血鬼になるとされた。

キリスト教徒は獣になることを恐れる。

●「美女と野獣」(*Beauty and Beast*)

罰を受けて魔法で野獣に変えられた王子は、人間に戻るために人間の愛を得ようと必死になる。

資料 11 ゾンビ

ゾンビー魔術的な力、あるいは何らかの力で死体のまま蘇った死体。西インド諸島では、ヴァドゥー教の呪術師が蘇らせ、魔術を使って心をコントロールしたりした。

参考文献

ジャン・マリニー著、池上俊一訳『吸血鬼伝説』創元社、1994年

ジャン・ミシェル・サルマン著、池上俊一訳『魔女狩り』創元社、1991年

マシュー・バンソン、松田和也訳『吸血鬼の事典』青土社、1994年

ブラム・ストーカー著、田内志文訳『ドラキュラ』角川文庫、2014年

『新共同訳 聖書』日本聖書協会、2003年